

出張講座・楽しく歌うために!

●飯沼中学校でのふれあい講演会!

今日は午後から「音楽の都ウィーンからの贈り物・出張指導」で春日部市立飯沼中学校(野田隆幸校長、生徒数 356 名、教職員 34 名)へ伺いました。昨日と今日の午前中が中間テストで、昼食前の1時間が全校生徒を対象とした「非行防止教室」、そして午後1時50分~午後3時までが富田千種先生による「ふれあい講演会」でした。今回は、飯沼中学校卒業生でピアニストの大館裕美さんにもお手伝いいただき、クラシック音楽の時代による違いや歌うことの楽しさなどについて実演を交えてご指導いただきました。【下の写真は飯沼中学校 HP より】



* * ◆ウィーンの街について

最初に歌います。最初の曲は北原白秋作詞、山田耕筰作曲の日本の童謡「この道」[…歌を終えて…]。クラシックというのはマイクを使わずに歌います。次はスペイン民謡で「グラナダ」です。グラナダの街は美しい、恋も芽生えるという内容です […歌…]。

ウィーンは人口 170 万人くらいの街ですが、東オーストリア帝国と呼ばれた大きな国の首都でした。現在は小さい都市ですが、音楽の都と呼ばれる由縁は、市内に 8 つもの劇場があり、ほとんど毎日、歌曲やオペラが上演されています。スライドを見てもらいましょう。ウィーンの王宮の写真、街の様子、ドナウ川、モーツァルトのお墓や住居など。

ここでモーツァルトが作曲した「トルコ行進曲」を大館さんに演奏してもらいます。中世にウィーンと戦争していたオスマン帝国(トルコ)の軍楽隊の音楽から作られた曲です […トルコ行進曲披露…]。

もう少しスライドを見てもらいます。こちらは 1869 年に完成したウィーン国立歌劇場です。明治維新と同時代の劇場が今でも使われているのです。しかも年間維持費が 300 億円、日本の文化庁予算の 10 倍くらいに当たるのではないのでしょうか。ウィーンにとっては歴史と伝統を守るための経費です。チケット代が 4 割程度、国や市が 6 割を負担して運営していて、ここが文化の差だと思います。

モーツァルトは、当時の最先端音楽を提供していました。今で言えばジャニーズでしょうか。追っかけもいたし、モーツァルトの曲を聴いて失神するという人もいたそうです。今はクラシックと呼びますが、当時は流行曲だったのですね。



【富田様の講演と歌の様子】



次にバッハです。日本の伝統的な音楽と言えば、長唄や三味線で弾かれるような音楽でしょうが、明治維新後、日本では 12 音の西洋音楽を取り入れました。その 12 音を作ったのがバッハです。最初は音を出すだけ、音を楽しむだけだったのでチェンバロで良かったのですが、ピアノが生まれて音に気持ちを乗せることができるようになります。ロマン派という音楽家たちが登場します。その代表の一人・リストの「愛の夢」を大館さんをお願いします […愛の夢披露…]。モーツァルトの曲と全く違った心に入ってくるような音楽だということが分かってもらえましたか。

◆一緒に歌ってみましょう

話を聴いているだけでは退屈でしょうから、ここからは皆さんに歌ってもらいましょう。合唱祭の全校課題曲「翼をください」をお願いします。



歌の基本は姿勢です。しっかりとした姿勢を取り、腹式呼吸で息を吸いお腹を膨らませて止める、そこから歌を歌うことで身体が支えられて声が出ますね。息を吐きながら声を出して…。まだ声が目覚めていませんね。前半は遠い大空に向かって投げかけるように言葉をはっきりと大きく歌いましょう。後半は大空を雄大に飛んでいるように歌いましょう。…

* *

途中 3 年生が手本になり歌う姿を見せたり、30 分弱の指導でしたが、歌い方の違いを理解してもらったのではないのでしょうか。最初は声が出ていなかった皆さんも、最後の合唱では最初とは見違えるくらいにメリハリの利いた歌い方になっていました。